



令和元年度

つながる食育推進事業 報告書

—— 静岡茶でつながる学校・家庭・地域の食育 ——

静岡県教育委員会

令和2年2月

はじめに

静岡県といえば「静岡茶」。

静岡県は、日本一高い富士山や日本一深い駿河湾をはじめ、多様な風土と温暖な気候に恵まれ、多彩で品質の高い農林水産物が豊富にあります。学校給食においても、数多くの地場産物が登場し、特に静岡茶は、給食の時間にやかんや給茶機で緑茶が提供される地域があり、さらに、茶葉そのものを学校給食の食材として活用するほど、他県に誇れる自慢の農芸品のひとつです。平成28年12月には、静岡茶が児童生徒にとってもっと身近なものとなり、健全な心と体を培い、豊かな人間性を育むとともに、毎日の習慣として静岡茶を飲むことを目的に、「小中学校の児童生徒の静岡茶の愛飲の促進に関する条例」が制定されました。

静岡県の食育は、「食を通して人をはぐくむ」ことを目指しています。

静岡茶をツールに学校における食育を推進することは、静岡県の産地、歴史及び文化を学びその理解を深め、その健康効能は健康教育の教材となって、生涯にわたる望ましい食生活を実践する能力を形成します。さらに、静岡茶をきっかけに食卓を囲み、家族が揃って食事をする共食の機会となることはもちろん、身近な人たちに静岡茶を振る舞うことで人間関係をつくる機会ともなり、まさに「食を通して人をはぐくむ」静岡県の食育に最適なツールです。

今年度、裾野市立東小学校及び裾野市立富岡第一小学校をモデル校として静岡茶を活用した食育の取組を行い、その成果についてまとめました。各学校及び地域において、今後の食育を推進する際に、本資料を参考としていただけたら幸いです。

最後に、静岡県つながる食育推進事業推進委員会の委員の皆様におかれましては、本事業の趣旨に御理解、御協力を賜りましたことに深く感謝申し上げます。

また、裾野市教育委員会、裾野市立東小学校及び裾野市立富岡第一小学校におかれましては、様々な取組に熱心に取り組んでいただきましたことに心より敬意を表しますとともに、今後益々の御発展を祈念いたしまして御礼の言葉とさせていただきます。

令和2年2月

静岡県教育委員会健康体育課 課長 名雪 元

目 次

第1章 概要	1
1 静岡県現状	
2 事業の趣旨	
3 事業の目標	
4 事業の計画	
5 静岡県つながる食育推進事業推進委員会	
第2章 実践	5
1 モデル校の紹介	
2 モデル校における取組（裾野市立東小学校）	
3 モデル校における取組（裾野市立富岡第一小学校）	
4 モデル校における取組（両校）	
5 栄養教諭を中核とした全校体制による食育の指導・評価方法の開発	
6 栄養教諭間の連携及び栄養教諭の研修	
第3章 成果と課題	34
1 裾野市立東小学校の取組	
2 裾野市立富岡第一小学校の取組	
3 栄養教諭間の連携及び栄養教諭の研修	
参考資料	38
おわりに	44

第1章 概要

1 静岡県の現状

静岡県では、小中学校の児童生徒の静岡茶の愛飲の促進に関する条例（平成28年静岡県条例第53号。以下「静岡茶愛飲促進条例」という。）を定め、静岡茶をツールとした食育を推進することにより、児童生徒の健全な心と体を培い、豊かな人間性を育むことを目指している。

静岡茶愛飲促進条例では、学校において、静岡茶を飲むこと、静岡茶を学ぶことを柱に掲げ、それを受け、県内の小中学校で様々な取組が行われている。平成30年度の学校で静岡茶を飲む機会を設定している割合は83.5%、静岡茶の体験学習の機会を設定している割合は49.3%となっており、静岡茶を飲む機会を設定している学校は多いが、体験を通して学ぶ機会が十分整備されているとはいえない状況であった。

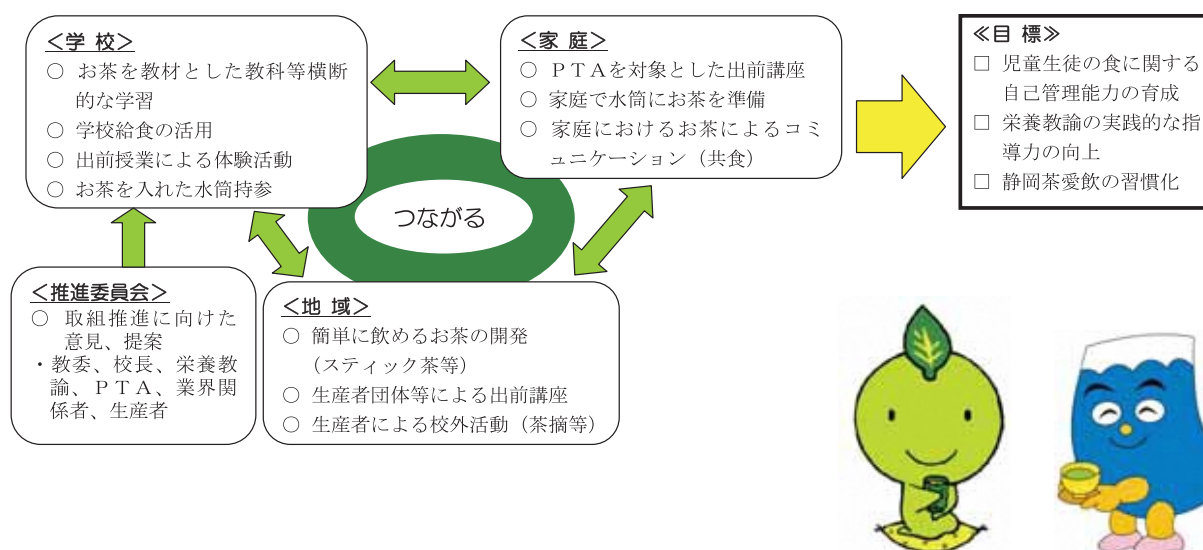
また、地域により取組状況は異なり、いわゆる茶産地と呼ばれる地域では、茶畑のある風景が一般的で、伝統的にお茶に関する取組が行われているが、そうでない地域においては、地域に茶畑がなく、子供たちは静岡茶を身近に感じておらず、学校においては静岡茶の食育のイメージやその効果に対する理解を得にくい状況にあった。

さらに、家庭でお茶を入れて飲む機会も少なく、急須が家庭にないといった状況も多く見られた。

2 事業の趣旨

静岡茶を通じた食育を推進するためには、学校での取組だけでなく、家庭や地域が共に取り組むことが必要である。そのため、本事業では、文部科学省事業「つながる食育推進事業」を活用し、学校・家庭・地域が連携した体制を構築するため、裾野市と連携して裾野市立東小学校及び裾野市立富岡第一小学校をモデル校として実践し、その成果を県内に広く周知し、本県における静岡茶の食育の一層の推進を図ることとした。

<イメージ図>



3 事業の目標

- 静岡特産のお茶を飲み、お茶の味、機能性を学ぶことを通して、食に関する理解を深め、日常生活における実践力を身に付けるとともに、お茶の歴史、文化等を学ぶことで郷土への愛着を高める。
- 親も子も共に静岡茶について学び、家庭でお茶を飲むことで共食の機会を増やし、家庭の教育力を高める。

4 事業の計画

A. 児童生徒の食に関する自己管理能力の育成

(1) 現状と課題

- 朝食摂取率が高いが、食事内容、共食、食事マナーに課題。
- 食育に関心はあるが家庭で取り組まれていない。
- 農業が盛んで地域と連携した食農体験の実施。
- 食育を通じた児童の正しい食生活を見直し、家庭における食事の環境づくりの支援が必要。
- 地域ぐるみで子供たちを育てる体制づくりが課題。

(2) 目 標

- 特産のお茶を学ぶことを通して、伝統的な食文化等の食に関する理解を深め、実践力を身に付け、郷土への愛着を高める。
- 家族と一緒に楽しく共食し、食事のマナーや栄養バランスの良い食事の摂取等の基本的な食習慣を身に付け、健全な心と体、豊かな人間性を培う。

(3) 評価指標

- 朝食をとっている割合（現状 98%→目標 100%）
- 栄養バランスのとれた朝食をとっている割合（現状 37%→目標 60%）
- 朝食を大人と一緒に食べる割合（現状 23%→目標 55%）
- 裾野市でお茶を生産していることを知っている割合（現状 62%→目標 90%）
- 家で緑茶を毎日飲む・飲む日が多いの割合（現状 40%→目標 75%）

※ 現状は第2次裾野市食育推進計画を参考。

(4) 内容・方法

- 静岡茶を教材とした教科横断的な学習、お茶の淹れ方教室等の体験学習、静岡茶を使った学校給食の提供、給食の時間における指導、給食だよりの活用。
- 家庭と連携し学校でお茶を愛飲できる環境の整備（静岡茶入り水筒の持参）、家庭向けのお茶の効能等を啓発したお便り等の配布。
- 子供が学んだことを家庭で実践し共食の機会となるようPTAを対象としたお茶の淹れ方教室等の実施。
- 生産者等による簡単に飲める地域のお茶の提供、出前講座及び校外活動の受入れ等の協力体制の整備。

B. 栄養教諭を中核とした全校体制による食育の指導・評価方法の開発

(1) 現状と課題

- 食に関する指導の全体計画は整備されているが、計画に沿って実践できていない。
- 食育の評価は、授業等の実践後の児童の変容により評価は行っているものの、客観的な指標等による評価方法は確立されていない。

(2) 目 標

- 食に関する指導の計画の作成・運営について、指導部を活用し、より具体性のある計画及び評価方法を整備する。

(3) 評価指標

- 学校評価の食に関する項目で A の割合（現状 60～90%→目標：前年度以上）

(4) 内容・方法

- 各教科・領域（体育科、家庭科など）において、栄養教諭が計画的に食に関する指導に参画。また、その学習効果を、教職員が評価。
- 指導部で食に関する計画の運営状況、今後の予定を確認し、指導部員がそれぞれの学年に伝達。PDCA サイクルに基づき、より具体性のある計画を整備。

C. 栄養教諭間の連携及び栄養教諭の研修

(1) 現状と課題

- 市内の栄養教諭・学校栄養職員等が集まる栄養士会で、食に関する指導に特化した協議の機会がないが、平成 30 年度から市内の栄養教諭が増えたことにより、栄養教諭間で食に関する指導を中心に情報共有する別の場ができた。
- 食育の実践内容及び回数は学校及び栄養教諭間に差がある。

(2) 目 標

- モデル校の栄養教諭間で連携して、お茶を教材とした食に関する指導について検討し、実践する。
- 次年度の食に関する指導の全体計画に、お茶を教材とした食に関する指導を位置付ける。

(3) 評価指標

- お茶を教材とした食に関する指導の実践回数
（現状 0 回→目標：前年度以上）
- 食に関する指導の全体計画への位置付け
（現状：位置付けなし→目標：位置付ける）

(4) 内容・方法

- 各校の食に関する指導の計画から、静岡茶をツールに展開可能な食に関する指導内容を拾い出し、栄養教諭間で共有できる情報、実践を整理し、市の栄養士会等の場で議題に挙げ、実践に向けて検討。
- 実践内容について児童や学級担任の感想等から振り返り、次年度も継続して実践できるように内容を修正。
- 次年度の食に関する指導の全体計画に位置付けられるように検討。

5 静岡県つながる食育推進事業推進委員会

(1) 委員会名簿

【つながる食育推進事業推進委員名簿】				
委員	裾野市立東小学校	校長	山中	なほみ
委員	裾野市立東小学校	栄養教諭	山崎	南津代
委員	裾野市立東小学校	PTA 代表	米田	亜紀子
委員	裾野市立富岡第一小学校	校長	勝又	和仁
委員	裾野市立富岡第一小学校	栄養教諭	内田	鈴乃
委員	裾野市立富岡第一小学校	PTA 代表	眞田	修平
委員	裾野市教育委員会	指導主事	川波	正美
委員	(株)勝国製茶（茶生産者代表）	代表	勝又	直美
委員	県経済産業部お茶振興課	主査	白鳥	克哉
委員	県富士農林事務所企画経営課	主査	片井	祐介
事務局	県教育委員会健康体育課	健康食育班長	後藤	一弘
事務局	県教育委員会健康体育課	教育主査	渡邊	剛司

(2) 実施内容

<第1回> 令和元年6月11日（火） 裾野市役所

- ・委嘱状交付
- ・つながる食育推進事業の概要
- ・今後の計画

<第2回> 令和元年11月20日（水） 裾野市生涯学習センター

- ・県民会議の報告
- ・事前調査結果
- ・取組の中間報告と今後の予定

<第3回> 令和2年1月9日（木） 裾野市役所

- ・取組の成果と課題

<取組体制>

